

やすらぎだより

8
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第158号

「 追想 花火大会 」

施設長 植田 誠



当初は‘花火大会’と銘打った。地域に老人ホームらしきものではなく、地域貢献という言葉も使っていなかった四十数年前、やすらぎ園の夏の一大行事は始まった。夏祭りとは言わず納涼でもなく、タイトルは花火大会。地域の方々の期待は花火一点であると言っても過言ではない。大阪富田林の巨大花火大会への対抗心は無いだろうが、身近な花火としての満足感にはこだわっていたようである。

確か、コンセプトは「開かれた施設」であったと記憶する。コンプライアンスやディスクロージャー、ガバナンス等という堅苦しいカタカナ語がない時代、主導権は施設にあった。皆に喜んでいただくという大義名分は、行政を納得させ地域をも動かした。

入職頃の夏の記憶は脳裏から離れない。専門業者が打ち上げる何百発の花火の印象も細やかには残っているが、強く離れることはないのはやはり自身の体験だろう。

開催前の7月、毎年運転手である私はK先輩とともに数日間地域に出向いた。地域と言っても、現在とは違ってとにかく広い。天理市内はもとより、大和高原くまなくまわって広告ポスターを貼りまくるのだ。その数80枚、何はともあれ使い古した分厚い地図帳見ながら公民館や地域の掲示板を回る。全てに許可を得ていたかは定かではないが、寛容な時代にこそ成し得た行為だった。

お陰で当日は立錐の余地がない程の人だかり、毎年1000人が集まった。来場者の満足感を得られたが問題となったのは駐車場、施設前の一般国道25号線沿いの両側数百mに皆が停めた。

苦情はやがて口論となり、喧嘩にもなった。応援いただいた派出所の方でも収まらず、平成2年を最後に花火大会は取り止めとなった。

翌年から‘納涼の夕べ’と表し、平成18年からは現行の‘夏祭り’となった。時代が変わり趣も変わるが追い求めるものは変わらない、それは満足感。今年は8月4日、心満たされる一日であることを望む。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業